

世界食品安全会議2018

エグゼクティブ サマリー



www.tcgffoodsafety.com

東京,日本 | すべての消費者に 2018年3月5日-8日 | 安全な食品を





GFSC 2018に関すること



20 ジャーナリストが参加

1.3 K 4日間でのライ ブツイート数

5.2M ポテンシャル・イ ンプレッション 7.2K フォロワー (+25% > 2017)

#gfsi18

@myGFSI

@myGFSI

3.2BN 世界のポテンシャル オーディエンスの数 28K

*>バー
(+12% > 2017)



*G2B: 官民



目次

サマンサ・マー,マーケティング・マネージャー,ワイド・トロピズ

世界食品安全会議。

プログラム一覧5	ム
1日目: 2018年3月6日火曜日	シアホエ・ヒー, 登録部門副ディレクター・ジェネラル, 中国国家認証認可監督管理委員会(CNCA)
プレコンファレンス: GFSI とあなた 岸 克樹, 商品管理本部 グループ品質管理部長, イオンリテー ル株式会社	マイケル・レポラティ、エグゼクティブ・セクレタリ、ACHIPIA (チリの食品安全局)
アンディ・ランソム, CEO, レントキル・イニシャル	ショナーアメリカ食品医薬品局(FDA)
アン・ジェラルディ, GFSI シニア・マネージャー, The Consumer Goods Forum8	マチルダ・ホー, ビッツアンドバイツ 創業者兼マネージング・ディレクター18
プレナリー 1: 食品安全文化とリーダーシップ	羽生雄毅博士, 精進ミートプロジェクト&インテグリカルチャー CEO19
安倍 晋三, 首相, 日本	3日目: 2018年3月8日木曜日 プレナリー 5: 2020年東京オリンピック、栄養と食品の未来 鈴木大地、日本スポーツ庁長官/オリンピック金メダリスト20 出雲 充、株式会社ユーグレナ 代表取締役社長
プレナリー 2: 顧客の声に積極的に耳を傾けていますか?. サラ・L・カサノバ、代表取締役社長兼最高経営責任者(CEO),日本マクドナルドホールディングス株式会社	ギャラリーディスカバリーツアー22GFSI 理事会23G2G およびG2B 会合23記者会見24デジタルでの会話24スペシャル・セッション25展示25テック・トーク25
2日目: 2018年3月7日水曜日	ブレイクアウト・セッション
プレナリー 3: GFSIグローバル・マーケット・プログラム -キャパシティ・ ビルディングと食品安全文化構築への道のり	スポンサー, 展示, パートナー28





はじめに

GFSI世界食品安全会議



GFSI世界食品安全会議2018は、これまでにな 催国です。今年の会議は日本およびその他の 境界をまたいだ協力や国際的な政府間協力、 およびCGFの歴史上過去最多の参加者数となけつになろうとしています。 りました。一連のプログラムや同時開催され があり、また世界最大の食品会社や団体からるにもかかわらず減ることはありませんでした。 は著名な講演者が多数ステージに登壇しました。GFSIのステークホルダーは、食品に非常

ました。このイベントは2001年の初回以来一生産を夢見る新規事業の創設者である羽生るチャンスがあります。 貫して拡大を見せており、出席者数の記録更 雄毅博士まで、繰り返しこの革新的文化の実 新は驚くにあたりませんが、それでも日本で例を示しました。 初めて開催されたGFSI世界食品安全会議とし でしょうか。

交互で開催されてきたため、日本は、2015年 一・セッションで、講演者は開かれたコミュニ のマレーシアに次ぎアジアでまだ2番目の開 ケーションの重要性に言及しました。官民の

に関心がある人々であり、日本には世界が誇 今年のイベントはすばらしい成功をおさ

ては特段満足できる数字と言えるのではない 日本からであろうとジャマイカからであろう と、またカナダからであろうとカメルーンから であろうと、参加者は1つの主要なトピックス、 GFSI世界食品安全会議はヨーロッパと北米と 協調による創造力に同意しました。各プレナリ

い盛り上がりをみせました。約1,200人の参加 アジア各国から記録的な数の参加者を集め、 そして企業とその顧客の協調が、規制の重複 者がこのイベントのため東京に集まり、GFSI 彼らは帰国後、各地域で食品安全革命の火付 から危機管理に至るまでのあらゆる食品業界 の問題に対する解決策になるという見解が主 流でした。この会議自体がそのような協調を た会議には前例がないほど政府のサポート 一方、欧米からの参加者も、比較的遠方であ もたらすきっかけになっていることを示しまし

る非常に豊かで創造的な食文化があります。 め、GFSIを食品安全推進のリーダーとして世 参加者は50か国以上にのぼり、多国籍企業、 日本の官民の講演者は、日本の食品安全への 界にはっきり位置付けました。私たちには1つ 中小企業、小売業や製造業、研究機関や規制 関心を古代における竹の葉の利用にまでさ のコミュニティとして、「すべての消費者に安 当局など食品産業のあらゆる分野から集結し かのぼった安倍晋三首相から、火星での食肉 全な食品を」というGFSIのビジョンを押し進め

プログラム概要

3月5日 月曜日	3月6日 火曜日	3月7日 水曜日			3月8日 木曜日				
	ウェルカムコーヒー	ウェルカムコーヒー			ウェルカムコーヒー				
ディスカバリー ツアー	GFSI & You (10.00-12.00) スポンサー: レントキル・イニシ ャル	スペシャルセッション1 - 4 (8.15-9.15)			スペシャルセッション 5 - 8 (8.15-9.15)				
		ビューロ ベリタス Vendome エコラオ Chatele		レントキル・イ ニシャル Palais Royal C	ディバーシー/ CxS Palais Royal C	DNV GL Chatelet	SAI グロー バル Etoile	SGS Vendome	
		分科会1 to 3 (9.30-10.45)			分科会 7 to 9 (9.30-10.45)				
		分科会1 分科会2 規制当局が担う役割 を殖と漁業 の変遷		分科会 3 食品安全文化	分科会 7	分科会 8 食品偽装コンプライ アンス		分科会 9 食品サービスと ホスピタリティ	
		Palais Royal C Palais Royal B		Palais Royal A	Palais Royal C	Palais Royal B		Palais Royal A	
		ネットワーキング休憩 (10.45-11.30) スポンサー: Danone			ネットワーキング休憩 (10.45-11.30)				
		全体会議3 (11.30-13.00)			閉会 全体会議 (11.30-13.00)				
スポンサー: エコラボ	参加者ランチ (12.00-13:30)	参加者ランチ (13.00-14.30) スポンサー: Cargill							
	開会 全体会議 (13.30-15.00)	全体会議4 (14.30-16.00)							
	ネットワーキング 休憩 (15.00-15.45)	ネットワーキング休憩 (16.00-16.45) スポンサー:Danone 分科会 4 - 6 16.45-18.00							
	全体会議 2 (15.45-17.15)	グローバル・ マーケット ビッ	分科会 5	分科会 6 監査員力量					
	オープニングカク テルI (17.30-19.00) 展示エリア: スポンサー: ヤマトホールディン グス	Palais Royal B Palais Royal A 公式ディナーレセプションスポンサー:グリーンフェンス18.45 グランドニッコー台場より送迎バスが出ます場所: 八芳園							

世界食品安全会議 2018 / エグゼクティブ・サマリー エグゼクティブ・サマリー / プログラム概要







主な重要事項:

- グローバル化の影響が地球全体に拡大 するにつれ、食品安全は複雑さを増して います。.
- GFSIはグローバルのフードチェーンに含 まれる70億人を代表する多様なメンバー とガバナンスの恩恵を受けています。
- GFSI世界食品安全会議2018は、アジアお よび世界全体の食品安全文化の継続的 変化を生み出す可能性があります。

プレ コンファレンス セッション:

GFSI とあなた

GFSI世界食品安全会議2018の初日午前 中には、イベントの導入となるプレコンフ アレンスセッションがあり、The Consumer Goods Forum(CGF)のマネージング・ディ レクター、ピーター・フリードマン氏、GFSI理 事会議長でカーギルの食品安全、品質・規 制担当副社長であるマイク・ローバック氏、 およびレントキル・イニシャルCEOのアンデ ィ・ランソム氏が担当しました。

の付けられた2時間のセッションの前半で は、GFSI(グローバル・フード・セーフティ・イ ニシアチブ)のミッションと活動について再 確認しました。講演者は、このGFSIの沿革や 最近の業績、そしてGFS認証を採用した企 業に開かれる輝かしい未来について語りま した。



ー、イオンリテール(株) グループ品質管理 が、セッションの最初 に今年の会議が行 われる場所の特殊性 とその世界的意味な

ど、簡単な会議の紹介を行いました。岸氏は GFSI日本ローカル・グループの議長として 会議の成功と課題について多くの時間を費 やして検討してきたと同時に、参加者を東 京に引き付けることができるか心配してい

ました。この会議はずっとアメリカ人主導で 実施されてきたためです。「けれども、すばら しい結果を得ることができました」と岸氏は 述べました。

会議室を埋めた満員の聴衆を見ながら、岸 氏は、今年の参加者が欧米各国とその他の 国々とでほとんど半々であることを指摘しま した。「この多様性により会議はより魅力的 なものになります」と岸氏は述べました。こ 親しみやすく「GFSIとあなた」というタイトルの前例のない多様性が、長く西洋文化と東 洋文化の出会う場所であった日本で実現し たことは特筆に値します。岸氏は、この会議 がアジア地域においてGFSIの存在をより大 きなものにするきっかけになると予想しま

> 「ここで大勢の方々とお会いできて大変う れしく思います」岸氏は最後に述べました GFSIボード・メンバ が、それはまるで旧友を自宅に迎え入れる かのようでした。

部長である岸克樹氏 岸氏がアジアの可能性を指摘したのに続 す」。



き、レントキルCEOの アンディ・ランソム氏 がこの地域の実情に ついて紹介しました。 「私はアジアを愛し ています」と、ランソ ム氏は述べました。「 その色彩、その起業 家精神、その文化を

愛しています」。けれども文化がグローバル 化されるとともに、複雑さが増しています。 アジアは最も人口の密集した地域で、世界 の60%の人間が30%しかない土地に住ん でいます。都市化と人工密集地の増加は食 料供給に対する圧力になります。一方、この 地域全体でのGDPは2018年から2022年の 間に6.2%の成長が予測されており、すでに 急速に拡大している中流階級の増加が見 込まれます。2030年までには、世界の中流 階級の66%がアジアに住んでいるはずで す。10億人以上の、技術を使いこなし新しい 食に興味のある人々の食を満たす必要があ

「今すぐ議論に加わろうとする企業には、 大きなチャンスがあります」ランソム氏は述 べました。「今すぐ」とはこの会議のことです。 「今日の参加者は、食品流通のあらゆる分 野からいらしています。ベスト・プラクティス を共有し、より安全な食品をあらゆるところ に提供するための行動を起こしているので



CGFのマネージング・ ディレクター、ピータ ー・フリードマン氏 は、アジア全体につ いて述べたランソム 氏から、グローバル・ フード・セーフティ・ イニシアチブ (GFSI)

およびその母体組織であるThe Consumer Goods Forum(CGF)についての簡単な紹 介に話を絞りました。フリードマン氏は最初 に、健康や心身ともに健康で幸せな状態(ウ ェルビーイング)から環境持続性まで、CGF およびそのメンバーが取り組んできた戦略 的トピックスを集めた表のスライドを見せ ました。フリードマン氏は食品業界に関連 するCGFプロジェクトを聴衆に紹介し、これ には持続可能なサプライチェーンのイニシ アチブや食品廃棄削減の努力などがありま した。

また別の画像で、フリードマン氏は会議の 出席者がもっともよく知っているCGFのブラ ンド、GFSI(グローバル・フード・セーフティ・ イニシアチブ)を紹介しました。その画像に は、世界地図の上にGFSIのさまざまなステ ークホルダー、小売業者や製造業者、認証 規格オーナー(CPO)、学術機関、消費者、規 制当局、などのグループが重ねて示されて いました。

「私たちの義務は、GFSIにすべての関係者 を代弁する適切なガバナンスがあることを 確認することです」とフリードマン氏は述べ ました。フリードマン氏は、GFSI理事会メン バーの笑顔を並べたその後のスライドで、 このガバナンスについて説明しました。フリ ードマン氏は、前回の選挙による変更を報 告しました。新メンバーのスコット・スティル ウェル、ナタリー・ディーンソン、およびロイ・ キルビー各氏が理事会に加わり、それ以外 のメンバーは再選されました。マイク・ロー バック氏が再度議長に選任され、アニータ・



ショルテ・レイマー氏 およびジリアン・ケラ ハー氏が副議長とし てサポートします。

カーギルの食品安 全、品質・規制担当 副社長であるマイク・ **ローバック氏**が立ち

上がり、理事会議長という立場から会議を 紹介しました。話を始める前に、ローバック 氏は、岸氏とそのチーム、CGFおよびGFSIチ ーム、そしてGFSIが主催する過去最大のイ ベントに集まった参加者に謝辞を述べまし た。

ローバック氏の話は、ベンチマークと協調、 キャパシティ・ビルディング、そして官民連携 というGFSIの3つの主要戦略の説明から構

成されていました。

GFSIはソート・リーダーシップへも新たなス テップを踏み出しました。理事会は、地域お よびローカル・レベルでリーダーが何を行 うかを検討し、それらの行動を国際舞台向 けに作り直します。これだけの国を超えた垂 直な協調には、透明性と包括性が必要です。 「私たちは、ベスト・プラクティスを共有し てすべてのサプライ・ネットワークをより良 いものにしたいと望んでいます」とローバッ ク氏は述べました。

GFSIの活動の主な目標は、食品安全への パスポートとなるベンチマーク認証を作成 することです。「私たちは、直面する障害を 越え、食品安全管理と基準を調和させなけ ればなりません」とローバック氏は述べま した。ここでいう調和には、US FDAの食品 安全強化法(Food Safety Modernisation Act)といった規制の変更が含まれます。こ れは米国の国境をなんとか超えようとする すべての食品に影響する重要な法律の1つ

食品安全認証を取得するだけの基盤また は能力を持たない企業は、グローバル・マ ーケット・プログラムを通じて、食品の安全 を守るシステムの最初のステップに近づく ことができます。これは、サプライチェーン のトレーニングの基盤となるカリキュラム

GFSIの主な戦略を紹介した後、ローバック 氏は、前日に行われた政府間(G2G)および 政府対企業(G2B)の会合に話を向けまし た。そこでは40以上の政府機関代表者が会 合し、食品安全の領域における官民の協力 について協議しました。この会合は3回目 で、ローバック氏によれば、参加者はあらゆ る場所の消費者のメリットになるようにベ スト・プラクティスやデータ、戦略を共有す ることに「慣れてきて」いるといいます。この 新しいレベルの対話の実例として、GFSIは、 実際のプロジェクトを世界中で継続して実 施するための了解覚書 (MoUs) を作成しま

ローバック氏は、G2GおよびG2B会合の出 席者、およびより幅広く聴衆に対し、透明性 や部門を超えた協力を目指して努力したこ とを感謝しました。ローバック氏は、おそら く今日の本質的に相互接続されたシステム を予見していたと思われるカーギルの前

CEOの言葉を引用し ました。「何も隠すこ とができないような 世界では、隠すもの は何もないほうが良 い」。

セッション後半はパ

ネル・ディスカッションに充てられ、GFSIシ ニア・テクニカル・マネージャー、マリークロ ード・クエンティン氏が司会をして、GFSIコミ ュニティのあらゆる部門の関係者が参加し ました。まず、認証規格オーナー(CPO)の幅 広く国際的なパネリストが、GFSIのベンチ マーキング要求事項バージョン7.2への情 報について議論しました。このバージョンは 最近リリースされたもので、旧版の要素を 合理化し、柔軟性、効率性、実用性を強化す るものです。

JFSMのCEO、西谷徳治氏は、ベンチマーク の概念を日本の状況にあわせてローカライ ズし、岸氏が前に指摘した、日本がアジア地 域に影響を及ぼす可能性について繰り返し 述べました。JFSMはGFSIベンチマークを、 テロワール、技術、そして手作業にこだわる 日本の伝統的料理である和食の原則と調和 させます。

BRCグローバル・スタンダードのCEO、マー ク・プロクター (Marc Proctor) 氏は、GFSIベ ンチマーキング要求事項バージョン7.1に対 して承認された最初のCPOとしてパネリス トに参加しました。プロクター氏は新しいべ ンチマーク・プロセスの特徴である自己評 価を取り入れ、そのためBRCは自社のシス テムを批判的客観性をもって見られるよう になり、また新しいプロセスで導入された 評価へのより厳格なアプローチが可能にな ったと言います。

FSSC理事会議長、フォン・シュミット(Fons Schmid)氏は、GFSIが近く発表する監査員 試験プログラムについて説明しました。これ は、監査員の最低限の知識を設定すること で、リモートで監督し適正な監査員であるこ とを証明するテストです。聴衆からテストの 正確さについて質問が出たとき、シュミット 氏は断言しました。「これはフェイクニュー スではりません。素晴らしいニュースです」。

世界水産養殖同盟(Global Aquaculture Alliance) のスタンダード・コーディネータ ー、ダン・リー (Dan Lee) 氏は、最新のベンチ

3月6日火曜日/エグゼクティブ・サマリー エグゼクティブ・サマリー/3月6日火曜日







マーク要件の新しい3つの分野、食品エージ ェント、ケータリングおよびフードサービス 部門、小売業者および卸売業者を紹介しま した。どの分野も食品偽装およびフード・デ ィフェンスに取り組んでおり、GFSI要求事項 では脅威の評価や消費者へのリスク緩和とました。 いった手段を通じてこれらに対処していま す。リー氏は、その日の朝にホテルの部屋に 届けられたJapan Newsの見出し「技術から 基準に重点を移すとき」を引用しました。G-FSIは、このような移行を可能にするツール を提供しています。

CanadaGAPのエグゼクティブ・ディレクタ ー、ヘザー・ゲイル (Heather Gale)氏は、農 場などの一次産品部門の特殊な必要性に 対処するために行われた要求事項の変更 に言及しました。一次産品の環境で要求事 項が非現実的な内容については、削除さ れ、その他の条項は言い回しや過度な特異 性を排除するために簡素化されました。「私 たちは今後も農業の世界にGFSIを適応させ る方法を見つけていきます」とゲイル氏は 述べました。

パネル・ディスカッションの最後の講演者 はIFSのマネージング・ディレクター、ステファ ン・トロンプ (Stephan Tromp) 氏で、新しい ベンチマーク要求事項の未来を推測すると いう課題に挑戦しました。トロンプ氏は、食 品の新しいトレンドや新たな技術、あらゆる

柔軟性がより重視されることになると予測 しました。「目標を達成するには、どこにいよ うと、どんな仕事であろうと、どんな規模の 会社で働いていようと、あらゆる人々に参加 してもらわなくてはなりません」と氏は述べ

2つめのパネル・グループは、GFSIにおいて 「すべての作業を行っている」とマイク・ロ ーバック氏が称賛するGFSIローカル・グル ープの9人の代表が参加しました。その言葉 にたがわず、代表者たちはGFSIの原則を各



地域に持ち込むため のFocus Daysの開 催や、地域の官公庁 と基準をすりあわせ るといった、集約的 で重要な作業に関 わっています。GFSI のシニア・マネージ ャー、アン・ゲラルディ

(Anne Gerardi)氏がこの多彩な討論を司 会しました。司会者は代表者たちに、もっと も誇りに思う業績や、これから達成したいこ 連携してメキシコ食品安全基準作成をサポ とについて質問しました。

ヨーロッパ・ローカル・グループのピエール・ ド・ジネストル (Pierre de Ginestel) 氏は、自 分のグループのメンバーが多様であること が誇りな一方で、東欧の代表者にさらに参 規模の食品ビジネスに対応できるように、加してほしいと述べました。グループは、新

しいメンバーを探すのと同時に、この地域 全体の規制当局とより密接に連携したいと 望んでいます。

日本ローカル・グループの岸克樹氏が誇り としたのはもちろんGFSI世界食品安全会議 2018の開催でしたが、グループの成果はそ れだけではありません。GFSIのJapan Focus Dayには400人が集まり、グループのメンバ ーが苦労して翻訳したGFSI Webサイト日本 版も立ち上がりました。

中国ローカル・グループのジエ・シュウ(Jie Xu) 氏は忙しい1年を過ごしました。このグ ループは最近、中国で最初のCGFオフィシャ ル・オフィスを開設したのです。オフィスが できたことでグループは地域の関係者との エンゲージメントを加速させることができ ました。メンバーは今では57社にのぼり、監 査員力量やベンチマークのローカライゼー ションといった内容を協議するため集まっ ています。グループは、今年後半には上海で China Focus Dayを開催する予定です。

南米ローカルグループのフェルナンド・アヴ ェレイラ氏およびアナ・ヴェラ(Ana Vera) 氏のグループも、昨年かなり大きくなりま した。以前はほぼアルゼンチンに集中して いましたが、今ではチリその他の国の代表 が参加しています。これらの代表者はグロ ーバル・マーケットの拡大、サプライヤー教 育、および公的機関との協調を重視してい

南米ローカル・グループのエリック・イエー ガー(Erich Jaeger)氏は、新しいGFSIチー ムの代表です。イエーガー氏のグループは 異なる部門の9社の大企業から構成されて おり、チリに食品安全文化を広めるための MoUを作成しています。グループの希望は、 食品を通じてチリの南米における存在感を 強化することです。

メキシコ・ローカル・グループのルイス・エル ナンデス (Luis Hernandez) 氏は、最近、メ キシコ経済省、産業部門、および学術機関と ートしました。正式な文書は9月に公開され ます。5月には、このグループはメキシコシテ ィでFocus Dayを開催します。エルナンデス 氏は、聴衆の中で興味のある方は、スポン サーとしてこのイベントをサポートしてほし いと呼びかけました。



北米ローカル・グループのクリスティン・サマ アクセスできます。 ー (Christine Summers) 氏とジョージ・ヘ ルナンデス(Gorge Hernandez)氏は、SIS-CO、Land O'Lakes、Hormel、およびCostoco などの企業からの代表者の協力を得、コー ネル大学のメンバーが運営する強力な基 盤を構築しました。「これのもっともすばら しいことは、優れた人々が競合のない環境 に集まることです」と、サマー氏は皆に笑顔 を向けながら述べました。

セッションの締めくくりには、国際的政府機 関および非政府機関の8つの主要パートナ ーからなるパネル・グループが、GFSIアプロ ーチを日々の実践に組み込むために行って いる方法を説明しました。パートナーたち は、官民が手をとりあって、すべての消費者 に安全な食品をという共通の目標に向かう 希望に満ちた世界を描いてみせました。ア ン・ゲラルディ氏が再び司会をつとめまし たが、ここではパネル・グループ・メンバー のGFSIとの関係性に注目しました。

世界銀行の国際金融公社(IFC)東アジア・ 太平洋地域ディレクター、ヴィヴェク・パタック (Vivek Pathak) 氏は、カザフスタンやジョ ージア、ウクライナなどの開発途上地域にあ る中小規模の農業団体にGFSIのガイドライ ンを導入しています。GFSIの認証評価があ れば、これら中小規模の団体はNGOファン ドにより、容易にグローバル・マーケットに

環アメリカ農業協力機構(IICA)の健康的農 業および食品安全のリーダーであるロバー ト・アーン(Robert Ahern)氏は、GFSIを、民 間部門の技術的能力と資源を活用するチャ ンスととらえています。アーン氏の率いる組 織は伝統的に公共部門を対象としています が、食品安全のための公的資金はこの地域た。 では激減しています。そのためIICAは、開発 目標をさらにサポートできるビジネスとの 協力を強く望んでいます。

世界貿易機関の規格および通商開発機構 (STDF)トップであるメルビン・スプレイジ 氏は、公共部門のリソースに限りがあるとい う点でアーン氏に同意しました。スプレイジ 氏の組織ではそのため、GFSIと連携して、開 発途上地域に設立する食品安全プロジェク トで協力するためのトレーニング教材を開 発しています。STDFはまた、「食品安全は連 帯責任であり、信用の構築が非常に重要で ある」ため、公共部門とも連携しています。

アフリカにおけるアフラトキシン制御の連携 (PACA) のプログラム・マネージャー、アマ ーレ・アヤルー (Amare Ayalew) 氏は、セッ ションで唯一のアフリカからの講演者でし た。アヤルー氏は、ローバック氏のGFSI関係 者マップにアフリカが含まれていないこと を指摘しましたが、これを軽視ではなく「チ ャンス」と受け取りました。「私たちは55のメ ンバー国があり、学習を始める用意があり ます」と、アヤルー氏は自身の組織について 述べました。PACAはGFSIと連携して、アフリ 力大陸にCDCのPuseNetのような食品規制 ラボのネットワークを構築したいと願って います。「取引が拡大するにつれ、食の安全 を確保しなければなりません」とアヤルー 氏は述べました。

英国食品基準庁(FSA)の産業保障チームト ップであるマーシャ・ナイチンゲール (Marcia Nightingale)氏は、GFSIと特に緊密な 関係があります。ナイチンゲール氏は、政府 が民間の保険を活用して食品および飼料 の公的コントロール・プログラムを通知す る方法を示す参考文献を起草したヨーロッ パ・ローカル・グループとの非公式なワー キング・グループで、共同議長をつとめまし た。ナイチンゲール氏はまた、昨年ヒュース トンで行われた会議において、政府規制と GFSIベンチマークの比較分析を担当しまし

日本の農林水産省食料産業局食品企業行 動局長の横田美香氏は、官民協調の重要性 を繰り返しました。近年、横田氏の部署は中 小企業運営の向上や商業の育成、フードチ ェーンの分析といった内容についてGFSIと のコミュニケーションを強化してきました。 横田氏は今年の会議で特に重要な役割を 担っています。G2G会合の議長をつとめた のです。「GFSIは食品ビジネスの関係者を 団結させると期待しています」と横田氏は 述べました。これはこの会議の成果につい ての、適切な予測です。

行動ステップ:

GFSIコミュニティを活用します。自分の部門や専門分野の外にいる潜在的協力者 と接することで、何か新しいことを学べるかもしれません。

お近くのローカル・グループが開催するGFSI Focus Dayを確認してみましょう。

3月6日火曜日/エグゼクティブ・サマリー エグゼクティブ・サマリー / 3月6日火曜日





プレナリー 1: 食品安全文化とリーダーシップ

GFSI世界食品安全会議2018のオープニング・プレナリーは、リーダーシップのテーマにあわせて、世界でもっとも影響力のあるリーダーの1人である**日本の安倍晋三首相**



からのサプライズ・メッセージで始まりました。首相はこの会議を、日本にとって自然なことと位置づけました。日本には、歴史的に殺菌作用のある竹の葉を活用するなどといったイノベーションをともなう食の安全をおこなってきました。首相は、国際的な食品安全認証があれば、他国は、日本の消費者がすでに安全であると認識している食品を信用することができると示唆しました。この日本の食品安全文化に関する自信ある予測は、プレナリーを通じて繰り返されることになりました。



セッションに予定された講演者は、予定外のゲストと同じくらい著名な人々でした。 聴衆はまず、日本の公共部門の高官である農林水産省政務次官、上月良祐氏の話を聞くことになりました。安倍首相と同じく、上月氏も食品を保存するための日本の近代以前か

らのイノベーションを、日本人の中に深くし み込んだ食品安全文化の証拠として取り上 げました。「私たちは、食べ物を安全に保存 することを教えてくれた先祖に感謝しなけ ればなりません」と、上月氏は、醤油、味噌、 納豆をコラージュしたスライドを背景に述 べました。

これらの典型的な日本製品は、発明された時から原料はほとんど変わっていませんが、製造するプロセスは現代化されています。 上月氏は最近醤油工場を訪問した時のことを説明しました。そこでは従業員は電子機器を使用しあらゆる機械が完璧に清潔であることを確認していました。それらの特殊なツールは魔法の杖に似ているかもしれませんが、適応や革新を可能にする人間の能力に対抗することはできません。最高の機器を備えた企業でも、従業員が常に向上するように動機付けしなければならないのです。

上月氏はこの動機をカイゼン、つまり改善と 関連付けました。これはトヨタ方式で有名に なった、作業プロセス適応の決定的機能で す。カイゼンに取り組む組織は作業を合理 化するために、小さなことであっても新しい 方法を常に探します。これが最終的に生産 性の大幅な向上につながります。「日本人は これが大変得意としています」と上月氏は述 べました。そのため日本人は、カイゼンを伴 う認証に価値を認めます。

農林水産省は、日本全国の農業高校で農業 生産工程管理(GAP)を奨励しており、そこで 生徒は認証について学び、自信をもって年 長の監査員に行動を説明できます。「このよ うな経験は、生徒にとって人生を変えるほど の自信の根源になります」と上月氏は述べま した。上月氏はある農業学校の生徒との心 温まる挿話を披露しました。その生徒は「目 を輝かせて」将来日本トップの農業会社で 働く夢を語ったのです。

上月氏は将来に高い野望を持っており、、東京オリンピックおよびパラリンピックが開催される2020年までに、GAP認証の数を現在

主な重要事項:

- 社会的責任の目標は、財政的目標と同じくらい重要です。
- 2 消費者は、安全である権利、知る権利、選 択の権利、主張する権利を持っています。
- 3 どんなに技術を駆使しても、堅牢な食品 安全文化にとってかわることはできません。

レベルの3倍以上に増やしたいと望んでいます。農水省は世界市場における日本のステータスを向上させるための戦略として、認証を推し進めています。

上月氏はまた、「農水省はこれらの行動をサポートし、あらゆる人々と協力したいと望んでおり、世界中で食品安全を向上させる運動に積極的に関わりたいと考えています。この会議は、その大きな一歩であると信じています」とも述べました。



セッション最初の民間部門からの講演者、

イオン 取締役 代表執行役社長 グループ CEOの岡田元也氏は、日本における業界と 政府の関係に対する微妙な見方を示しました。この関係の複雑な性格を示すため、岡田氏は最近起きた同社のかなり重大な食品安全事故について説明しました。2000年にマスコミで大きく取り上げられた大腸菌汚染です。すぐに、埼玉県の保健所が汚染とイオンを誤って結びつけたことが明らかになりましたが、政府機関はその時点ではい

かなる誤りも認めることを嫌いました。当時 の埼玉県知事だけが正式にこの問題を再 調査する謙虚さを持ち合わせ、これが謝罪 につながりました。「この事件については今 でも覚えています」と岡田氏は述べ、政府が 業界を効果的に規制する能力に依然として 懸念を抱いていることを匂わせました。

また、同年の後半に狂牛病がグローバルフードチェーンにおいて問題になった時、日本におけるリスクの評価で、岡田氏は政府よりもGFSIを頼りました。日本の小売業者の中で、イオンだけが狂牛病に関連する販売規制に参加しました。イオンはまた、GMOにおける透明性についても業界をリードしています。GMO製品の安全性について判断することは差し控えながら、イオンは食品の原材料にGMOが使われているかをラベルに明示し、顧客が自分たちでそのような食品を食生活に取り入れるか判断できるようにしています。イオンの顧客は、知識に照らして疑問のある製品を消費しなければならないことは決してありません。

食品安全の問題の中にはあまりに複雑で、 小売業者も消費者もどうしていいか判断できないことがあります。1つの例が2011年の福島原発事故で、政府は暫定的な食品安全規制しか適用しませんでした。日本の消費者は一般的に政府の規制を信用していますが、イオンは、検査機器を入手し、自社の製品を規制し管理できるような独自のプロセスを構築しました。 岡田氏は特に中国製品に対する消費者の 差別的態度を嘆いています。岡田氏は、その ような態度はヘイトスピーチに繋がり、ナショナリストのイデオロギーを利するもので、 消費者には何の利益もないと見ています。「 当社では、そのような態度は撲滅する方が 良いと信じています」と岡田氏は宣言しました。

そのような態度をやわらげるため、岡田氏は、ジョン・F・ケネディ大統領が1962年のアメリカ連邦議会で提示した消費者の基本的権利の実行を提案しました。

1.安全の権利

2.知る権利3.選択の権利

4.発言の権利

米国における消費者の基本的権利への要求は1960年代にさかのぼりますが、日本政府は、独自の消費者の権利を法律化するのに40年以上かかりました。現在、消費者には消費活動の全ての情報を得て選択する法的権利が認められています。岡田氏は民間部門に対してはこの権利を尊重することを勧め、公共部門には「消費者のために継続的に法律を改善する」ことを求めました。

岡田氏の示唆に富んだ話の後、コストコホールセールジャパンの代表取締役/日本支社長のケン・テリオ氏は、日本で小売業を運営する上での問題について「短くて楽しい」



別の側面を示しました。コストコは世界第2の大規模小売業者ですが、日本ではまだ比較的ニッチなブランドであり、全国で26店舗しかありません。コストコでの問題の多くは、アメリカの典型的な製品を日本の人々に適応させることです。

コストコの食品安全綱領は米国で作成されたものですが、日本のカイゼンに似たところがあります。同社は「製品の品質、および製品の安全システムにおいて、当社のメンバーおよびベンダーの利益のために継続的改善を推進」しています。食品安全文化は「上(CEO)から下まで」同社のあらゆるレベルに根付いています。

何千ものサプライヤーを持つ小売業者として、コストコはそのサプライチェーンのあらゆる段階で常に用心していなければなりません。同社は規制要件だけでなく社内ルールに合致するようにベンダーの監査を実施、これは多くの場合政府のガイドラインより厳しいものです。監査員とベンダーの関係





3月6日火曜日 / エグゼクティブ・サマリー エグゼクティブ・サマリー / **3月6日火曜日** 11





は時には敵対的に感じられることもありま すが、コストコは「サプライヤーと対立する のではなく、ともに働くのです」とテリオ氏 は強調しました。

今後、コストコ・ジャパンはより日本のロー カル・マーケットに適応し、何も「静止」した ままにしないつもりです。同社はやることす べてに簡素化と品質を求めています。

テリオ氏は、個人的に気に入っている食品



安全文化を監視する方法を紹介して、講演 を終えました。週に4日、入口から出口まで「 施設内を歩く」ことです。「仕事をしている日 は必ず、有言実行(walk the talk)であること が重要です」。

味の素の代表取締役 取締役社長 最高経営 責任者である西井孝明氏は、製造業者の立 場から見た食品安全について述べ、セッシ ョンをまとめました。味の素は2017年に100 周年を迎えましたが、それでも食品科学や 社会活動の最先端にとどまろうと努力して います。

味の素は130か国以上に進出し、そのうち 多くは食料を満足に得られない多くの人口 をかかえています。同社はそれらの人々に プラスの変化をもたらす可能性を認め、Ajinomoto Shared Values (ASV) リストを作成 しました。同社はこれを、食品安全から人事 管理まであらゆる地域、そして同社のあらゆ る部分に適用します。

Ajinomoto Shared Valuesは次のとおりで

1.コンプライアンス

2.人権

3.品質管理

4.情報

5.企業の責任



味の素はまた、特定の戦略にASVを適用し て世界的食料問題に取り組む、4つの「サン プル・ストーリー」も作成しました。

1.おいしくて健康的な食で心の健康を増進 2.社会的な食生活習慣により家族や社会の つながりを強化

3.地域コミュニティと環境保護コミュニティ をつなげることで持続性を改善

4.さまざまな地域コミュニティの多様な顧 客の意見を尊重

このような高い社会的目標は、粉末香辛料 や加工食品を製造している企業とはかけ離 れているように見えるかもしれませんが、西 井氏は、企業が成功するには金銭的目標と 同じくらい社会的責任の目標が重要である と主張しました。社会的にプラスの影響を 与えることで、企業は「その会社に関わるす べての人々が快適で安心」であることを保障 できるのです。

その後、シャランジット・レイル氏が司会を つとめ、4人の講演者によるパネル・ディス カッションが行われましたが、多様な背景を 持ち異なる分野に属する4人が合意に至っ たのは驚くべきことです。全員がGFSIプログ ラムは組織のあらゆるレベルで食品安全文 化を効果的に推進することに同意しました。 岡田氏は特に次のように補足しました。「私

は、GFSIが民間組織として、政治家が動く前 に行動するのは素晴らしいと感じます。しか もそれを世界的規模で実行しています。今 後もGFSIを大いに尊重していくべきです」。

講演者は、ビッグ・データやブロックチェー ンなどの新しいイノベーションを含む技術 が食品安全に果たす役割についても、同様 に合意しました。「20年前、農薬問題などの 事件が発生しても、すぐに分析する手段は なく、皆パニックになりました」と西井氏は 述べました。「今日では、より早く精密に、同 じ事象を分析することができます」。岡田氏 も同じく楽天的でしたが、次のように言い添 えました。「あまり経験のないような多くの新 しい問題が起きています」。

将来的トレンドについて、3人の講演者が、 新しい優先事項として自然食品およびオー ガニック食品をあげました。西井氏はこの傾 向を、同社の社会的開発ミッションと結びつ けました。「私たちは、2050年以降の社会を サポートするために何が必要かを検討しな ければなりません」。

行動ステップ:

- 食品安全文化はトップレベルで始まっており、例を示して推進します。
- カイゼンの原則を採用し、モチベーションを上げて継続的改善を推進します。
- 問題に対する公共部門の反応が遅い場合は、民間部門のパートナーと連携しま す。またはその逆の場合もあります。

プレナリー 2: 顧客の声に積極的に 耳を傾けていますか?

食品業界はいつも、IoT(モノのインターネ ット) やブロックチェーン、ビッグ・データと いった技術的イノベーションを話題にして いますが、技術は実際の人々の有意義なつ ながりを育てるためにも利用できることは 簡単に忘れられてしまいます。GFSI世界食 品安全会議2018の2番目のプレナリーで は、B2B卸売業者から世界最大のEコマー ス・の1つまで、さまざまな業界の視点から これらの技術的なコネクションを扱います。 異なる技術や多様な業界部門に関わりなが ら、全員が、誠実なコミュニケーションと協 力が食品ビジネスを支えることで一致しま した。

は、カサノバ氏が責任者になって以来同社 が達成したすばらしい復活物語を紹介し



て、協調によって得られる建設的エネルギ ーを説明しました。

カサノバ氏のさりげないウィットは、簡単に 順応できるカサノバ氏の能力を示すもので あり、カサノバ氏がステージに上がるとすぐ 明らかになりました。「マクドナルドへようこ そ」、同社のドライブスルーにいるクルーが つけているのと似たヘッドセットを示しな がら、カサノバ氏はおどけてみせました。「 ご注文は何になさいますか?」実際、カサナ バ氏の復活戦略はドライブスルーでのやり とりとそれほど大きく隔たっていませんでし

は顧客が何を望むかに耳を傾け、それに従 って行動したのです。

2014年、一連の食品安全問題により日本マ クドナルドの株価が急落した後、カサノバ 氏は同社のサプライチェーン全体を徹底的 に検討し、事業を監査しました。すべての従 業員に新たな食品安全トレーニングを実施 し、多くの従業員を250人の専門家が参加し た食品安全サミットに招待しました。

ただし、評価の再構築には社内再構成以上 のものが求められます。カサノバ氏は、一般 の人々がマクドナルドの再生プロセスにコ メントできるプラットフォームについて力説 日本マクドナルドCEOのサラ・L・カサノバ氏 しました。日本ではほとんどの食品を選ぶ のは母親であることが分かっていたため、 カサノバ氏はママズ・アイと呼ばれるプロジ ェクトを立ち上げ、この重要な顧客を巻き 込みました。プログラムのためにカサノバ 氏は全47都道府県の母親たちを訪ね、その 質問や懸念を聞き、国中にあるマクドナル ドのサプライヤーに連れていきました。

> もちろん、カサノバ氏は母親以外の顧客の 意見も尊重しました。日本ではモバイル・ア プリケーションが人気のため、カサノバ氏 のチームは顧客が店舗マネージャーに直 接意見を送れるKodoアプリを開発しまし た。2017年12月までに、心臓の鼓動を意味 するKodoにより850万件の意見が寄せられ ました。マネージャーはこの意見を利用して 清潔さや品質、サービスを集中的に改善し大きく変化しました。 ました。

カサノバ氏は、2014年のスランプ後3年間 の順調な成長を示すグラフを見せて、会社版 「それからずっと幸せに暮らしました」の物 語を終えました。2017年は、日本マクドナル ドの株取引の歴史の中で最高値を記録し、 これは、一度は窮地に陥ったブランドとして はすばらしいことです。カサノバ氏は成功を た。プロセスのあらゆる段階で、カサノバ氏 前にして満足するような人ではありません。

主な重要事項:

- インフルエンサーが、文化と情報の伝統 的な「門番」であった情報発信メディアに 置き換わりつつあります。
- 危機管理には、社内の再構築だけでなく 外部へのアクセスが必要です。
- ナチュラルランゲージ処理により、大企業 は安全な食品ビジネスを成功させるのに 必要な人間同士のコミュニケーションを 拡大できます。

「食の安全はいまだ達成されたことのない プロセスです」とカサノバ氏は注意を促しま した。「さらに良くするためにできることは すべて続けていく予定です」。

セッションの2番目の講演者はデブリーズ・ グローバルのCEO、ハイディ・ホブランド氏



で、カサノバ氏と同じく顧客への働きかけ と新しいメディアの力を強調しました。ホブ ランド氏は影響の概念を紹介しました。こ れはいつもマーケティングの関心事でした が、ソーシャル・メディアによって民主的に

ソーシャル・メディアの用語では、インフル エンサーとは、自分の支持するブランドにフ ォロワーを導くことで影響を及ぼすユーザ ーです。ホブランド氏はこのグループを、百 万単位のフォロワーがいる「マクロ・インフ ルエンサー」と百から千単位のフォロワー を持つ「マイクロ・インフルエンサー」に分 けました。





ブランドはマクロ・レベルのインフルエンサ それらの店主自身の顧客の両方に対応する ーはすぐ大切にしますが、ホブランド氏は 聴衆に、マイクロ・インフルエンサーの力を 過小評価しないように求めました。そのフォ ロワーは熱心であることが多く、それぞれが かなりの影響を及ぼすことができます。もっ とも重要なことはおそらく、マイクロ・インフ ルエンサーには信頼性があることです。こ れは、ブランドがかつてなく必要とする、あ やふやだけれど避けられない性質です。

ホブランド氏はインフルエンサーの積極的 で創造性のある力と、うわさや中傷に対抗 してブランドを支える能力を強調しました。 この面では、中国が先頭にたっています。TmallやJD.comのような企業は、インフルエ ンサーのコンテンツをEコマースと組み合 わせることで、高い転換率を達成していま す。TargetやBAND-AIDなどのいくつかのア メリカの企業は、製品開発にインフルエン サーを利用して、信頼性や関係性をブラン ド・イメージに吹き込んでいます。これらの ブランドはインフルエンサーを脅威と感じ る一方で、インフルエンサーのプラットフォ 一ムを利用して自身の影響を強めています。 「適切な人々との適切なエンゲージメント を得られれば、目的を達成し、さらに成功で きます」とホブランド氏はまとめました。



メトロキャッシュアンドキャリー・ジャパンの CEO、石田隆嗣氏もまず同じことを確認しま した。「いらっしゃいませ、と大声を出してい る人たちを怖がってはいけません」と、石田 氏は、日本の店主の昔ながらの熱心なあい さつに慣れていないかもしれないと聴衆に 言いました。「店員はただ、みなさんと話を したいだけなのです」。

世界最大のB2B卸売業者の1つのCEOとし て、石田氏は店主の利害を代表してきまし た。石田氏は、顧客エンゲージメントのテー マに新しい視点を持ち込みました。これは、 メトロC&Cで購入するビジネス・オーナーと あらゆる食品ビジネスで必要な意味のある

ものです。

「お客様をサポートできれば、お客様は関 わっている成長するコミュニティの中で活 躍するでしょう」と石田氏は述べました。そ の目的で、メトロC&Cは、この相互に接続さ れデジタル化されたコミュニティに参加す るために必要なツールに営業がアクセスで きるようなプログラムを構築しました。多忙 なビジネス・オーナーはメトロC&Cのツー ルキットを利用して、専門的なWebサイト を作成し、オンラインでのアンケートを処理 し、ソーシャル・メディアでのプレゼンスを 維持できます。メトロC&Cは、パートナーが デジタル化された一部始終を確実に理解 できるように、コールセンター・サポートま で提供しています。

グローバル化されたマーケットでのパート ナーの成功を確実なものにするため、メト ロC&Cはグローバルな食品安全認証を重視 しています。同社はその先例であり、メトロ は、GFSIが承認した認証プログラムを採用 した日本で最初のチェーンの1つでした。そ の影響により、居酒屋(日本の気軽なバー) のオーナーまで安全性のためにそのやり方 を現代化しています。

メトロC&Cの中心的目標は、食品ビジネス の運用を簡単にし、顧客が自分たちの客に



提供する料理に集中できるようにすること です。石田氏はこれを指して、「顧客の成功 をサポートできれば、メトロは成功し続けま す」と述べています。

Amazonの安全衛生、サステナビリティ、セキ ュリティ&コンプライアンス部門副社長のカ **ーレッタ・ウートン氏**は、ビッグ・データの規 模では顧客エンゲージメントがどう見える かを紹介しました。世界最大のEコマース・ プラットフォームの1つとして、Amazonは、



コミュニケーションを管理するために、強力 な分析ツールを必要とします。

Amazonはオンライン書店として始まりまし たが、今では広い範囲の食品ビジネスも行 っています。Amazon.comでは常温保存で きる製品を販売し、一方Amazon Freshプラ ットフォームでは生鮮食品およびその他の 傷みやすいものを提供しています。さらに Amazon Prime Nowは、密集した都市部の 顧客に冷蔵および冷凍食品を届けます。同 社は、Whole Foods および Amazon Goを 取得して実店舗のスーパーマーケット・ビジ ネスに進出し、この店では加工食品や食料 品を主な商品にし、レジはなく、組み込まれ た技術により顧客が店を出ると顧客のアマ ゾン・アカウントに課金されます。これらの すべてのプラットフォームでは、安全性が最 重要課題です。

前の講演者も述べていたように、食品ビジ ネスで安全性と品質を維持する最良の方法 は、顧客とコミュニケーションをとることで す。ただし、Amazonは毎日40か国語で230 万件のやりとりをしています。世界には、そ れほど大量のテキストを解釈するのに十分 なコンテンツの専門家は存在しません。そ

のためAmazonは、ナチュラルランゲージ処 理を利用して食品安全の問題につながる可 能性のあるやりとりを判断しています。その ソフトウェアは非常に先進的で、コメントの 大部分を理解します。これにより熟練した専 門家は、非常に複雑なケースにのみ、その 注意を向けることができます。

このシステムを通じて、Amazonは数秒のう ちに食品安全問題を認識し、数分で行動を 起こすことができます。つまるところ、食品安 全の世界では、「善意は役に立ちません。問 題はスピードです」。

これに続くパネル・ディスカッションでは、 特に危機の軽減に関して、4人の講演者全 員から有効な行動ステップが提示されまし た。「お客様を中心にすることです」おそらく この問題についてもっとも経験のあるパネ リストであるカサノバ氏は述べました。「お 客様の言うことに耳を傾けてください」。

ウートン氏も同じようなアドバイスを行い ました。「これはGMの問題でも、財政的影 響の問題でもありません。人に関することで す。常にお客様のことを考えて判断すれば、 正しい判断ができます」。

ホブランド氏は、Blue Bell のCEO、ポール・ クルーゼ(Paul Kruse)氏の例を思い出しな がら次のように述べました。「会社の影に隠 れずに人としての存在を示すことができれ ば、それだけ早く復活できます」。

「食品安全は呼吸のようなものです。失わ れるまで、それがあることに気づきません」 と石田氏は述べました。「だからこそ、毎日 の生活でそれが非常に大切であることに気 付かなければなりません」。聴衆は突然自分 の呼吸を意識し、同時に食品安全を目指す 毎日の努力が自分の奥深くにしみ込んでい ることに気づきました。







行動ステップ:

- 危機に際して支持を得られるように、状況の良いときに影響力ある「仲間」を作り
- 民主化するソーシャル・メディアの力を活用して、消費者のレベルで消費者とつな
- 消費者から逃げてはいけません。人としてビジネスに臨み、コミュニケーションでき るようにしておきます。

14 3月6日火曜日 / エグゼクティブ・サマリー エグゼクティブ・サマリー/3月6日火曜日 15





プレナリー 3: GFSIグローバル・マーケット・プログラム キャパシティ・ビルディングと食品安全文化構築への道のり

GFSIグローバル・マーケット・プログラムは て、文書化、トレーサビリティシステムの構 正式な認証に向けた段階的ルートを提供 し、これにより小規模で成長段階のビジネス も食品安全の話に参加可能になります。プ レナリー3ではそのような成長中のビジネス を支援すると同時に、小規模企業が各地で 対応することになる可能性の高い政府規制 当局の間での議論を容易にしました。

公共部門の規制担当者が登壇する前に、グ ローバル・マーケット・プログラムで成功し た2つの民間部門の例が紹介されました。 最初はタタニア・シルバ (Tatania Chirva)氏 で、ウクライナにあるシルバ氏のインスタン ト食品工場で撮影されたGFSI Webシリーズ から新しいエピソードを紹介しました。シル バ氏は、ヘアネットをかぶった従業員がクレ ープをひっくり返している映像にあわせて、 プログラムによりどれほど安全性を向上さ せ、消費者の信用を獲得でき、また売り上げ を50%以上も伸ばせたかについて、説明し ました。



マレーシアに本拠をた。 置く健康食品ブラン ドの**ワイド・トロピズ** ムのマーケティング・ マネージャー、サマン サ・マー氏が登壇し、 同じく成功物語を語 りました。ワイド・トロ

居が一緒)を拠点にした主食の販売業者と も課題が生まれます。 して始まり、マー氏と2人の従業員が自分た ちで商品を詰めていました。つつましい環 境ではありましたが、彼らはイオンとの取引 という大きな野望を持っていました。彼らは サプライヤーとして応募しましたが、監査を 受け、即座に断られました。

グローバル・マーケット・プログラムに従っれた研究大学、規制機関、といった公共財が

築等の方法で安全性を強化しました。そし て、現代的な工場に移り、新しいスタッフを 雇用しました。その努力は2014年に報われ、 同社はイオンと取引するようになり、ASEAN Best Growth Company of 2016にも指定さ れました。「小さな会社でも食品安全で妥協 する必要はありません」とマー氏は笑顔で述 べました。



米国FDA元副長官の **マイク・テイラー氏**が 続けて登壇し、シル バ氏とマー氏の積極 的なエネルギーをさ らに盛り上げました。 「今は楽天的になる 時です」とテイラー氏

は述べました。「世界中の食品安全にとって、 素晴らしい時代です」。テーラー氏は公共部 門と民間部門間の協力パターン、責任の配 分、そして社会のあらゆる消費者に対し安全 な食品を提供しようとする熱意を述べまし

その講演の後半で、テイラー氏は少し慎重 になり、注意を促しました。広大でグローバ ル化した食品システムは、「自社の壁の中で 起きることだけではなく、何千ものサプライ ヤーを含む複雑で長大なつながりを伴いま ピズムはショップハす」とテイラー氏は述べました。この複雑さ ウス(注 お店と住 により、先進的環境でも発展途上の環境で

サハラ以南のアフリカにおいて世界銀行の 業務を行った経験から、テイラー氏は、発展 途上国においては小規模ビジネスの運営に 伴う食品安全の課題が高まることを知りまし た。この地域には、先進国ではビジネスで当 何度か拒絶された後、ワイド・トロピズムは たり前としている監視制度や土地を付与さ

主な重要事項:

- グローバル・マーケット・プログラム により、食品安全能力に限りのある 中小企業もGFSI承認規格に向けた 行程を開始できます。
- 第三者機関の監査員と規制当局は、 透明性と協調によりそのシステムを 向上させることができます。
- 非公式なセクターを含む発展途上国 には、GFSIステークホルダーにとって 多くのチャンスがあります。

ありません。グローバル・マーケット・プログ ラムは、現在は「非公式」なセクターのビジ ネスだとしても、ギャップを埋めるのに役立

バランスが重要です、とテイラー氏は主張し ました。「民間部門の責任は公的監視の役割 を果たすことはできませんが、どんなに規制 しても民間部門が責任を持たなければ食品 安全は実現しません」。



中国国家認証認 可監督管理委員会 (CNCA)登録部門副 ディレクター・ジェネ ラル、シアホエ・ヒー 氏が次に講演し、世 界の反対側からの公 共部門の見方を紹介 しました。ヒー氏も、

テイラー氏と同じく公共部門と民間部門、ま た国家間での公共部門代表者同士の協調 を強調しました。

ヒー氏の機関は、国家品質監督検査検疫総



局の傘下にあり、GFSI承認規格を含む中国 全土での認証および認定を監視し調整しま す。22,000以上の組織がCNCA認定の認証 を受けていますが、認定されていない組織 も多くあります。CNCAは企業が国際的認証 を取得し、輸出用製品と国内消費用製品を 同じ基準で製造することを奨励しています。 「認証は信用をもたらし、関係するすべての 当事者の必要性に合致します」とヒー氏は述 べました。

2001年に設立されて以来、CNCAは国際 的規制組織との協調を重視してきまし た。2016年のGFSI食品安全会議における G2GおよびG2B会合は、CNCAの協調の歴史 の中で特に実りある時間でした。その翌年、 米国の規制について学びベスト・プラクティ スを共有するために、CNCAは代表者チーム 良の意味での強調です」。 をFDAに送りました。

GFSI 世界食品安全会議2016に始まった国 を超えた協議は、その後のパネル・ディスカ ッションに引き継がれ、これには地球上のほ とんどすべての大陸からきた規制当局担当 者が参加しました。チリACHIPIAのマイケル・ レポラティ氏、米国FDAのスティーブン・オス トロフ博士、英国食品基準庁のジェイソン・フ ィーニー氏、ニュージーランド第一次産業省 のビル・ジョリー氏です。

パネル・ディスカッションでは、週のはじめ に開催されたG2GおよびG2B会合が要約さ れました。より多くの聴衆のために内容を凝 縮したのです。司会のシャランジット・レイル 氏が講演者に、30以上の機関の代表者が集 まったそれらの会議の雰囲気や、そこから導 き出された主なポイントを尋ねました。

マイク・テイラー氏が、独特な注意をこめて 会議の様子を説明しました。「相互協力には 大きな可能性がありますが、これは言うより 行うが難し、です」、テイラー氏は述べました。 「また、民間の監査が公的規制機関にとつ てかわることへの懸念もありました。これは

誰も望みません」。公 的規制機関のメンバ ーばかりの参加者た ちは、熱心に同意し ました。

「理想的世界では、 あまりに多くの第三 者認証があるべきで はありません 」と**ビ**

ル・ジョリー氏が述べました。ジョリー氏は、



と主張しました。 スティーブン・オスト ロフ博士は第三者認 証によりプラスの見

方をしていました。「第三者による監査によ り、規制機関の場合よりはるかに高い基準 をサプライヤーが保持することが多くありま す」と博士は述べました。「これはすばらしい ことです。私たち対彼ら、ではなく、言葉の最た。

ディスカッションが続く中で、協調が重要な テーマとして浮かび上がりました。講演者た ちは、政府と第三者による監査を調和させ、 業界と規制機関の関係を改善し、社会のあ

らゆるレベルで食品 安全文化を構築する ために、競合的アプ ローチよりは協調的 アプローチを勧めま

ジェイソン・フィーニ 一氏は、一部の公共



ビッグ・データその他

の新しい手段も、現

在第三者機関が提供

している保証を実際

に提供できるだろう

機関の規制文化の中には「我々と彼ら」のメ ンタリティーがいまだ根付いていることを認 めました。「私たちは敵対的文化を包括的で 協調的な文化に変化させなくてはなりませ ん。これは顧客を保護し、安全で確かな食品



良の方法です」とフィ ーニー氏は述べまし た。

「この新しいアプロ ーチが可能であると 信じる人々を増やさ なければなりません」

とマイケル・レポラティ氏は付け加えました。 「この会議のような、協調のための場所を 生み出す必要があります」。

プレナリーの最後の数分で、重点はグロー バル・マーケット・プログラムとその恩恵を 受ける小規模ビジネスに戻りました。マー ク・ローバック、ミッチ・チャイト、マイク・テイ ラーの各氏が、2回目のグローバル・マーケッ ト・プログラム・アワード受賞者を発表しまし

今年の受賞者は、メキシコのAsociaciones Agroindustriales Serranas、パキスタンの Nuts & Legumes Company、ナイジェリアの Plantation Industries Limited、そして日本 **のフジフーヅ**でした。

GFSIはこれらの企業がグローバル・マーケッ ト・プログラムを通じて安全基準を改善し、 確実で高品質の食品を消費者に提供したこ とを認めました。マイク・ローバック氏は、選 考委員会には他に少なくとも2ダースの同じ ようにすばらしい結果をもたらした応募者 がおり、これはプログラムの偉大な未来を示 すものであると指摘しました。

行動ステップ:

- 公共部門に属していようと民間部門に属していようと、国境の向こうにいる同じ立 場の相手と協調し、相手から学ぶことを検討します。
- 開発途上国のイノベーションと成長に注意します。
- 次のグローバル・マーケット・プログラム・アワードに注目しましょう。参加するチャ ンス、または自社のサプライチェーンのメンバーが参加するチャンスかもしれませ

16 3月7日水曜日/エグゼクティブ・サマリー エグゼクティブ・サマリー/3月7日水曜日 17





プレナリー 4: 食品産業における先端技術 新たな領域、挑戦と機会



ランチタイムのテック・トークから先端技術 に特化した特別セッションおよびブレイクア ウト・セッションまで、先端技術は今年の世界 食品安全会議の全体的テーマでした。プレナ リー4ではこれらの新開発に重点的、戦略的 に焦点を当てました。技術のディスカッショ ンは簡単に、その開発に直接関わっていな い者にとっては中身のない業界用語にすぎ ない内容に陥ってしまいます。けれどもこの セッションの講演者は、これらのイノベーシ ョンを消費者に提供する上でつきものの財 政的、技術的、法的、そして健康関係の課題 を避けることなく、食品のイノベーションに ついて詳細に説明しました。



学教授(Gellert Family Professor)のマーテ ィン・ウィードマン氏で、ウィードマン氏の注 意喚起はその後の対話の気分を少しそぐも のでした。ウィードマン氏は、食品技術メディ アが好んで取り上げる、新規食品や培養肉、 酵母併用乳製品、都市農業、革新的新興企業 などを列挙し、これらの製品で起きる可能性業、ビッツアンドバイツを創設し、早い段階

のある新しい偽装や疾病に対応した食品安 全を確保する対応ができているか疑問を呈

ウィードマン氏は講演の残りの部分で、新し い食品に関連する食品安全リスクの一部を 軽減する能力があるかもしれないイノベー ションを聴衆に紹介しました。それは全ゲノ ム・シーケンス (WGS) で、DNAの特徴を調べ る方法です。ゲノム解析は20年にわたって食 品の安全を守る武器として多く使用されてき ましたが、WGSではそれまでの方法が試み ることもできなかったほどの詳細な部分まで わかります。

WGSによりDNA解析は非常に詳細なものに なったため、研究者は特定の植物に関連す る細菌の特殊な種類まで判断できます。この ような解析により研究者は菌株の発生から その原因まで追跡できます。WGSではそれま での方法より効果的に流行も検知できます。 これは、流行が頻繁になったかのような幻想 につながるかもしれません。ウィードマン氏 は聴衆に、この過渡期的誤解をWGSや関連 する新しいゲノミクス・ツールを避ける理由 にしないよう要請しました。「ツールを使用し セッションの最初は、コーネル大学食品安全 ないことは、気付いている以上に大きなリス クを伴います」と氏は警告しました。

> ベンチャー投資家の**マチルダ・ホー氏**も、ウ ィードマン氏と同じくリスク評価について懸 念しています。ホー氏は上海を拠点とする企

主な重要事項:

- 全ゲノム・シーケンスは、先端食品技 術に伴う課題など複雑さを増すサプ ライチェーンへの解決策を提供しま
- 才能、投資、そして政府のサポートの 組み合わせが功を奏し、中国は食品 技術イノベーションの最先端にいま
- 食品システムのすべての問題につい て、1つの技術で解決できる「魔法」の ようなものはありません。よく考えら れた技術の連鎖により解決すること ができます。



で起業することで優れた食品の未来を描くこ とを目標にしています。ホー氏は、化学肥料 の過剰使用から持続可能なタンパク源まで、 食品システムの課題に取り組む新興企業を 探しています。

中国は、ビッツアンドバイツのような企業に とって特にふさわしい地域です。中国の急速 な経済成長は、資源の枯渇だけでなくかつ てない率での肥満や糖尿病の増加につな がりました。中国政府は、法の制定と1億1千 万ドルもの食品科学への投資によって食品 業界の変革を推し進めています。この投資 は、中国における急激な起業文化を支える 才能、技術、資本の、ホー氏が言うところの「

魔法の式」の重要な材料です。中国では毎日 4000の新興企業が設立され、そのすべてが 2500のインキュベーターの注意を引こうと 争っています。

まだ若いベンチャー・キャピタル企業は投資 先を選ぶ際にブランドや「物語」のような質 を求めることが多いですが、ホー氏にとって はそのような表面的内容は十分ではありま せん。ホー氏はよく考えられたソーシング、洗 練された製造技術、そして高度な消費者エク スペリエンスを重視しています。

これらの厳しい要件を満たす企業は、ビッツ アンドバイツから3つのCのサポートを得ら れます。まず、新興企業はコンセプトを証明 する製品を即座に製造するのに十分な資金 (Capital)と、投資の次のステージを獲得す るのに必要なコネクションを受け取ります。 さらに、4カ月のコーチング(Coaching)を受 け、活発なコミュニティ(Community)に参 加できます。GFSIと同じく、ビッツアンドバイ ツでも、学術機関、科学、メディア、ビッグ・ビ ジネス、小規模新興企業など食品業界のあ

イツの3つのCにふさわしい破壊的新興企業



の1つを代表する羽生雄毅氏でした。「破壊 的」という用語は羽生氏自身が自社に対して 使用したものです。「私がしていることは、こ こにいらっしゃる皆さまのような食品安全規 制機関の方々にとっては必ずや大きな頭痛 の種でしょう」と羽生氏はおどけてみせまし た。

羽生氏はShojinmeat Projectおよび「純肉(クリーン・ミート)」を製造する新興企業、イン テグリカルチャーの創設者です。この婉曲的 な言葉は、工場での動物の細胞培養、つまり 動物にやさしい肉を意味し、東京の中心でも

製造できます。つまり火星でも可能です。「そ してもし火星で行うなら、無重力でも可能で す」と羽生氏は述べ、サイエンス・フィクショ ンの宇宙ステーションのスライドをクリック しました。「かっこいいですよね」。

クリーン・ミートの主な問題は、コストです。 グラムあたりの価格でいえば、牛ひき肉と競 合できるのは何年も先です。そのためShoiinmeatビジネス・プランはまず高級化粧品 とサプリメント製品に狙いを定め、その後フ ォアグラのような高価値のたんぱく質を目指 します。羽生氏は聴衆に、最近のデモンスト レーションから「クリーン」なチキン・フォアグ ラの例を示しました。スタイリッシュにプレー トに盛られた付け合わせとソースの中心に、 バジルの葉にのせたグレーの柔らかな肉が のっています。

2つめの問題は、顧客の信用です。食品のこ とになると、消費者は技術的に新しいもの に懐疑的になります。羽生氏はマーケティン グの失敗例として、広く広まったGMOへの 不信をあげました。次のGMOにならないた らゆる面の専門家が集められましたが、それ め、Shojinmeatは完全な透明性を目指して らはすべてプラスの変化推進のためでした。います。すべてのデモンストレーションをオ ンラインでライブ配信し、世界中のすべての 人がそのプロセスを見られるようにしていま セッション最後の講演者は、ビッツアンドバす。またそのレシピを公開しており、機密情 報としているのは同社の拡張モデルのみで す。

> 次世代のクリーン・ミートへの抵抗をなくす ため、Shojinmeatでは培養キットを日本の 学校に提供しています。興味のある子ども は、クラスでペットを飼うように、自分の細胞 の塊を育てることができます。Shojinmeatの ある高校生インターンは、そのプロセスを漫 画に描き、全国のコミックマーケットで配布 しています。

> 羽生氏は、自身のブランドのクラフトビール の未来を描いてみせました。地域の「ファー マー」はShojinmeatベースで自分のレシピ

を開発し、独自のブランドを生み出し、Shojinmeatでその製品をより大規模に発表しま す。GM食品のような信用失墜を避けるには、 「市民規模で開始する必要があります」と羽 生氏は述べました。

司会のシャランジット・レイル氏は、ウィード マン氏と若いイノベーターとを注意深く、意 見交換させました。ウィードマン氏は、羽生 氏が提起した培養肉には「実質的に細菌が ない」という問題を取り上げました。現在の テストではカバーできない製品に関連して、 新しい細胞内病原菌がある可能性がありま す。「これは大きな頭痛の種です」ウィードマ ン氏は、羽生氏が先に述べたジョークを引用 して言いました。「まだ答えはありません」。け れどもウィードマン氏は、透明性と市民の科 学という羽生氏の主張には同意しました。

レイル氏は講演者に、人工知能やブロックチ ェーンなども含めた個別のイノベーションを 評価し、食品安全の解決にもっとも役立ちそ うな先端技術を1つ選ぶように求めました。 講演者たちは例外なく、1つの技術をトップ に選ぶことをためらいました。「すべての問 題を解決する1つの技術にかけるわけには いきません」とホー氏は述べました。「個々の 問題を解決するには、技術の連鎖を目指す 必要があります」。

「より安全な食品供給を生み出すのは、1つ の技術ではなく持っているすべての技術の 組み合わせです」とウィードマン氏も同意し

Impossible Burgerのような植物ベースの代 替肉と自社の関係を問われた羽生氏は、「食 品マーケットは非常に大きくて多くの企業が 入る余地があります」と述べました。「これは 個人の好みの問題です」。この回答には、多 様な食品業界の代表者からなる聴衆の何人 かがうなずきました。

行動ステップ:

- 業界が席巻される前に変化を予測するには、新興企業部門の先頭で開発を続け
- 市民の科学および思い切った透明性により、消費者の信用を獲得します。

18 3月7日水曜日/エグゼクティブ・サマリー エグゼクティブ・サマリー/3月7日水曜日 19





プレナリー 5: 2020年東京オリンピック、栄養と食品の未来

主な重要事項:

- 食品安全認証は、消費者が自身の向 上に集中できるため、消費者の生活 をより良いものにします。
- 藻などの一般的ではなかった原料 が、世界中の飢餓と栄養失調を減ら す上で役立つ可能性があります。
- 発展途上世界における起業文化の 拡大が、食品産業およびそれ以外で の革新的なイノベーションを推進し ます。

世界食品安全会議の最後のプレナリーで は、未来への見通しを扱うことが伝統になっ ています。GFSI世界食品安全会議2018には、 特に焦点をあわせるポイントがありました。 会議の東京会場からすぐの場所で東京オリ ンピックが開催される、2020年です。プレナ リーのこれまでの講演者により明らかにされ ているように、日本の食品業界は急速に動い ています。アスリートが東京に集まる2年後ま でに、ロボットの有名シェフが調理したユー グレナを楽しめるようになっているかもしれ ません。

「耳をすませてください」と、スポーツ庁長官 で1988年の金メダリストである鈴木大地氏



は述べました。「建設が進んでいるのが聞こ えますか?人々は歓声を上げていますか?」



「いいえ」と鈴木氏はため息をつきました。「 それは幻聴にすぎません」。

喝采の声は幻聴だったかもしれませんが建 設は現実です。東京とその周辺地域ではす でに2年後のイベントに向けて必死で準備し ています。メニューまで変化しています。鈴木 氏は、GFSI承認規格認証プログラムで認証さ れた材料のみを使用したちらし丼(刺身を乗 せたごはん)のおいしそうな画像を示しまし た。なんといっても、日本のことわざに言うよ うに、「腹が減っては戦はできない」のです。

この言葉は、オリンピアンにとって特別な意 味を持ちます。オリンピアンはただ胃を満た すために食べるだけでなく、人間の能力の 限界に挑戦する肉体にご馳走で力をつける ために食べます。若いオリンピアンだった鈴 木氏は、食中毒やその他の問題を避けるた め、注意して食事を選んでいたことを覚えて いました。鈴木氏は現代のアスリートには食 事の安全性ではなく自分のパフォーマンス に集中してほしと望んでおり、そのため関係 者に、選手村のためにはGFSI承認規格を持 つ材料のみ購入するように奨励しています。

アスリートのための食品安全には、どの認証 プログラムにも含まれていないかもしれな い問題が含まれています。たとえば、アスリー トは薬物検査の実施を避けるため、ポピー・ シードやステロイドで汚染された豚肉を避 けなければなりません。また、そのパフォー マンスのわずかな違いが成功と失敗の違い につながる可能性があるため、他の人は気 にしないようなことにも過敏になります。鈴

木氏は、テニス・プレーヤーのノヴァク・ジョ コビッチはグルテンフリーに対処してはじめ てタイトルを獲得したと述べました。

オリンピック委員会は、アスリートに安全な 食品を提供するだけでなく、アスリートがそ の立場を利用して食品関係の問題について 一般人を教育することも奨励しています。鈴 木氏は、日本人アスリートにその故郷に戻っ てもらい、地域の学童と一緒に食事すること を思い描きました。アスリートは、テーブル で、食品に感謝し、廃棄を避け、食料不足な どの世界的問題を認識することを子供たち に教えることができます。この努力はIOC(国 際オリンピック委員会)の2020年に向けた持 続可能性と奉仕戦略に沿うものになるはず

株式会社ユーグレナの社長、出雲充氏は 2020年の日本についてかなり異なる予測を 持っていました。その年までに、ユーグレナ は毎日の食事で一般に食べられるようにな



っていると、考えました。動物と植物の両方 の性質を持つ単細胞生物であるユーグレナ は、その名を冠した出雲氏の会社、そして明 らかに出雲氏の人生の中心です。

日本の一般的中流家庭に生まれた出雲氏 は、大学のインターンシップでバングラデシ ュを尋ねたときにその革新的イノベーション への道を歩み始めました。バングラデシュで 出雲氏は初めて貧困を知り、栄養不良を直 接見ることになりました。けれども国は食物 であふれていました。子供たちは十分なカロ リーを得ているのに、ビタミン不足の壊滅的 影響を受けていたのです。日本に帰国した出

決意しました。

ユーグレナは、その解決策を提供しました。 ユーグレナは59の栄養素と肉のような完全 なタンパク質を持ち、人間が生きるために必 要なほとんどすべての栄養素を含んでいま す。唯一の問題は、コスト効率的にできるだ けの量を育てることです。何年もの試行錯誤 の末、ユーグレナ株式会社は大規模にユー グレナを育てる方法を開発しました。

ユーグレナの待ち受けていた瞬間から、同社 は東京証券取引所に上場しました。これは東 京大学から起業した新興企業として最初の 名誉で、時価総額10億ドルにまで成長しまし た。同社はまたFSSCおよびFDAの認証を受 け、ハラルおよびコーシャーの機関からも認 証されました。「日本のお客様は食品につい ては非常に特殊です」と出雲氏は述べまし た。そして認証は、消費者が安全性と品質を 確認するのに役立ちます。

将来的に、出雲氏はユーグレナを食品から エネルギー・マーケットにまで拡大したいと 思っています。この「未来の超生物」は石油製 品にかわる持続可能な製品であるバイオ燃 料またはバイオ・ジェット燃料にすることが できます。「2020年にまたおいでください。そ して私たちがどれほど成長したかをご覧くだ さい」と出雲氏は聴衆を招待しました。

会議の最後の講演者はトレンドオフィス・バ カスのアディエッジ・バカス氏で、将来の食 料、エネルギー、その他についてさらに高遠



雲氏は、栄養失調の解決に人生をかけようと な予測を持っていました。マルチメディアを 使用したプレゼンテーションで、バカス氏は、 万華鏡のような未来のビジョンを見せ、人工 子宮で育てられる家畜から社内ヒエラルキ 一のない会社、ツェッペリン・ルネサンスま で、すべてを扱いました。バカス氏の予測が どんなに信じ難いものであっても、バカス氏 は必ず、すでに最前線にある問題と関係する 行動ステップにそれらを結びつけました。

> 世界が、ダイアモンド本位のイスラエルの暗 号通貨を採用するかもしれないと示唆した 後で、バカス氏は聴衆に、自分たちの情報と 資産を保護するための技術的セキュリティ に投資することを勧めました。バカス氏はま た、投資家が、発展途上国で急成長する新興 企業に注意を払うことも推奨しました。

前に講演した鈴木氏のように、バカス氏も食 品廃棄を特に問題視しました。バカス氏は、 食料をより効率的に輸送するためにツェッペ リンを使用して、輸送時の食品廃棄を防げる かもしれないと示唆しました。バカス氏はま た、新興企業であるCopiaを紹介しました。同 社は余剰食糧を持つ人々と、食料不足に悩 む人々や団体とを結びつけます。バカス氏は 最後に、食べられない部分のない果物や野 菜を育てる新しいビジョンを説明しました。

バカス氏は最後に、会議の中心的テーマの1 つである協調について述べました。「皆さん」 はすばらしいコミュニティで、食品安全の大 学です」とバカス氏は述べました。「この場所 でも、またデジタルでもつながりを持つこと をお勧めします」。

「たくさんの、考えるための栄養をいただ きました」と冗談を言いながら司会のシャラ ンジット・レイル氏はステージに戻り、ジリア ン・ケラハー、アニータ・ショルテ・レイマー、 そしてマイク・ローバック各氏を紹介して会 議を閉じました。



ローバック氏は会議の最後に、日本政府から GFSIチームとそのCGFの同僚、通訳者まで、 関係したすべての人々に心からの感謝を述 べました。また司会のレイル氏にも感謝し、「 まさにプロの会議にしてくれました」とコメン トしました。

最後にローバック氏は、GFSI理事会の同 僚であるピエール・ド・ジネストル (Pierre Ginestel) 氏およびフレデリック・レネ (Frédéric René)氏に主役の座を譲りまし た。昨年、花柄の着物で現れた日本ローカ ル・グループへの引継ぎのようなものはあり ませんでしたが、ド・ジネストル氏およびレネ 氏も同じように自国を代表する決意をもって いました。

「アクセントからわかるとおり、私たちはフラ ンス人です」とジネストル氏は述べました。 ジネストル氏は聴衆を来年ニースのコート ダジュールで行われる会議に出席するよう 招待しました。「今年の会議に対抗するのは 大変そうですが、フランス人は決してあきら めません」。

21

2019年、ニースでお会いしましょう。

行動ステップ:

- アスリートやその他のインフルエンサーと連携し、食料問題への一般的知見に影 響を与えます。
- 心を開いて柔軟性を維持すれば、企業は新しいトレンドにあわせて伸びることが できます。

20 3月8日木曜日/エグゼクティブ・サマリー エグゼクティブ・サマリー/3月8日木曜日





ディスカバリー・ツアー

でした。参加者は3つの特別なディスカバ リー・コースからツアーを選び、これらはど れも日本の食品および飲料業界への独自

「食品と飲料の300年」ツアーは、超現 代的なキューピータマゴ東京工場(Egg Base) から地域でもっとも古い酒蔵である 澤ノ井まで、時間をさかのぼる旅を計画し ました。伝統的日本庭園を眺めながらお 酒を味わった後、グループは1900年の歴 史を持つ大國魂神社も訪問しました。

食べるのが大好きなグループは、「味のす

ディスカバリー・ツアーは、日本の文化と べて」ツアーを選びました。これは進化を 伝統を直接経験するすばらしいチャンス 続ける日本の味覚に光をあてるものでし た。参加者はキリン横浜工場、味の素川 崎、そして地域のコストコで少しずつ試食 しました。お腹が満足したら、900年の歴 の理解ができるように計画されていまし 史を持つ川崎大師で精神的にも栄養補給 をしました。

> 「農場から食卓まで」ツアーは、輸送およ び物流施設であるクロノゲートから小売 りチェーンのメトロキャッシュアンドキャ リーおよびイオンまで、日本の食品業界全 体を見せました。ツアーの締めくくりは、日 本食品業界最大の展示会であるFoodEx Japanでした。



GFSI グローバル・ マーケット・プログラム ・アワード

マーク・ローバック、ミッチ・チャイト、マイ ク・テイラーの各氏が、2回目のグローバ ル・マーケット・プログラム・アワード受賞 者を発表しました。今年の受賞者は、メ キシコのAsociaciones Agroindustriales Serranas、パキスタンのNuts & Legumes Company、ナイジェリアのPlantation Industries Limited、そして日本のフジフー ヅでした。GFSIはこれらの企業がグロー バル・マーケット・プログラムを通じて安 全基準を改善し、確実で高品質の食品を 消費者に提供したことを認めました。.

GFSI 理事会

GFSI理事会を構成する主要な小売業、製 造業、一次産品、および食品サービス業の リーダーたちは、会議の前に集まって、変 化する食品業界の状況における新たな課 題について話し合いました。理事会は、食 品サービス、Eコマース、伝統的小売業、一 次産品および製造業から新たに加わった 優れたメンバーを歓迎しました。以前から の、また新しいメンバーはともにボランテ ィアで作業を行い、主要な業界のニーズ にあったGFSIの戦略的方向を決めました。





G2G および G2B会合

GFSIは、政府間(G2G)および官民(G2B) の第3回会合を東京で開催しました。今年 のG2B会合では、GFSI理事会に25か国の 40の組織および5つのIGOが加わりまし た。会合は、第三者認証および新しい食品 安全問題を話し合うとともに、規制当局や 民間部門が、バリュー・チェーン・マネジメ ントの観点からどのように食品の安全性 を高められるかを検討するチャンスでし た。カナダ政府のポール・メイヤーズ氏、日 本の横田美香氏、およびGFSI理事会議長 のマイク・ローバック氏が会合を運営し、 食品安全と取引の観点から第三者認証の 情報を伝え、理解を共有しました。







22 ギャラリー / エグゼクティブ・サマリー エグゼクティブ・サマリー / ギャラリー 23





記者会見

オープニング・プレナリー・セッションの直前に行われた今年の記者会見 での焦点は、官民連携 (Public-Private Partnerships) でした。国内および 国際的メディア・ビジネスおよび経済メディアが多く出席した記者会見で 新しい連携が発表されました。これにより公共部門と民間部門が食品安 全文化への戦略的アプローチを推し進め、GFSIのグローバル・マーケッ ト・プログラム(発展途上マーケットに、堅牢な食品安全システムを導入す るためのフレームワーク)に基づいた機能が拡大できます。「このような種 類の官民協力は、前例のないものです」とGFSI理事会議長のマイク・ロー バック氏は述べました。「世界中で見られるサポートが、大きくてポジティ ブな変化を示しています」。



デジタルでの会話

デジタルでの食品安全についてのやりとりは 成長を続けており、今年の会議では会議全 体を通じて活動をつぶやくライブのツイッタ ーを利用しました。参加者は、ツイートにハ ッシュタグ#gfsi18をつけてツイートすること で、それぞれの考えやセッションの結論をシ

ェアしました。GFSI自身のブースとプレゼン テーション・シアターに近い便利な場所にあ り、多くの参加者が足をとめてやりとりを確 認するとともに、来られなかったコミュニテ ィのメンバーも世界中から参加しました。







活気ある展示会場では、参加者は新しく革新的 な食品安全ソリューションについて学び、また GFSIコミュニティと交流しました。実際、会議の 展示会場はそれ自体でコミュニティになり、多く の親しい人々に初めて参加した少数の地元の 人々が加わりました。会場では30以上の出展者 が店を開き、中には伝統的な日本のお茶のお 点前を行うところや、マスコットとの写真撮影を 行うところもありました。アトラクションを楽しみ ながら、参加者は多彩でフレンドリーな人々と つながりを作るチャンスを得、営業活動も行い

ました。



スペシャル・ セッション

早起きの出席者には、朝行われた一連のスペシ ャル・セッションに出るチャンスがありました。 ここでは業界の指導的立場にある何人かが、食 品安全、技術、そしてイノベーションに関するも っともホットなトピックスを話し合いました。水 曜日のセッションでは、グリーンフェンス、エコ ラボ、ビューローベリタス、そしてレントキルの 専門家が、ブロックチェーンやビッグ・データの 世界での自分たちの冒険物語で参加者を楽し ませました。木曜日には、DNV GI、SAIグローバ ル、SGS、およびディバーシー&CxSのキープレ ーヤーが登場して、消費者の信用、フード・ディ フェンス、デジタル・トランスフォーメーション、 および食品安全文化における技術の役割とい った複雑な考えを検討しました。



テック・トーク

ヒューストンでのGFSI 2017ではじめて実施さ のインターネット、食品流通、およびモバイル・ れたテック・トークが、要望により東京でのGFSI 世界食品安全会議2018でも開催されました。こ の短いセッションはメインホールで続く会議の ブレイクになり、よりくつろいで堅苦しくない環 境で食品安全の個別のトピックスを議論する場 になりました。名称からわかるとおり、これらの 各プレゼンテーションはビッグ・データやモノ



アプリケーションなどの食品安全技術に焦点を 当てるものでした。食品業界全体の専門家が経 験やインサイトを伝え、食品安全科学および技 術の最前線を紹介しました。

24 ギャラリー / エグゼクティブ・サマリー エグゼクティブ・サマリー / ギャラリー 25

世界食品安全会議 2018 - #gfsi18

世界食品安全会議 2018 - #gfsi18





ブレイクアウト・セッション

今年のブレイクアウト・セッションでは、参加者 は食品業界に影響しているトピックスをさらに 掘り下げることができました。出席者は現実の 事例(成功例や学んだ教訓)を聞き、食品安全 の最前線にいる人々から実際的で現実的なア プローチを得ることができました。

養殖漁業セッションでは、業界をリードする講 演者が品質とトレーサビリティの重要性に焦 点を当てました。講演者たちは、世界の養殖漁 業サプライチェーンを確実に安全安心で持続 可能なものにするための、ベスト・プラクティス を概説しました。

規制当局が担う役割の変遷セッションでは、グ ローバル・サプライチェーンが複雑さと相互 依存性を増すのに伴い、反復的国際安全基準 が必要であることが話し合われました。講演者 は、国際的基準を導入して取引拡大し、あらゆ る場所の消費者により安全な食品を届けるこ とを奨励しました。

食品安全文化セッションには、特に大勢の聴 衆が集まり、ヨーロッパ、アジア太平洋、そして 米国のリーダーたちが自分たちの食品安全文 化モデルを紹介し、またさまざまな戦略に共 通するテーマに光を当てるのに耳を傾けまし た。参加者は、自身が食品安全の文化を構築す るための実践的行動ステップを知ることがで きました。

グローバル・マーケット・プログラムとキャパシ ティ・ビルディングセッションでは、GFSIの認証 へのルートが自分の組織にどのような利益を もたらすかに関心を持つ参加者に、価値ある 情報を提供しました。公共部門および民間部 門、そしてさまざまな政府間組織のパネリスト が、GFSIグローバル・マーケット・プログラムの ようなスキームが、いかにして地域の製造業 者にとって効果的な食品安全管理システムを 構築するための解決策になるかを検討しまし た。

ビッグ・データセッションは、コンシューマー・グ ッズ・フォーラムのルーディガー・ハーゲドルン 氏が司会をつとめ、食品業界におけるこの技 術および予測的分析の役割の拡大に焦点をあ てました。講演者は利用可能なさまざまなツ



ールを検討し、これらの機能が消費者エンゲ ージメント、サプライチェーンのセキュリティ、 および食品の品質向上にどのように寄与する かを示しました。

監査員の力量セッションでは、技術の開発と新 しいリスク分野に直面する食品安全監査員の 役割の変化について考察しました。講演者は 監査の経験を紹介し、Google Glassなどのウェ アラブル技術の現場での適用性を検討しまし

一次農産品セッションでは、食品サプライチ ェーンの最初の段階である農場に注目しまし た。一次産品におけるキャパシティ・ビルディ ングは、GFSIの中核的戦略目標の1つです。講 演者は、生産者が世界の食品会社とリアルタ イムでどのように知識を交換しているかを掘り 下げて論じ、食品安全の未来を見つめました。

食肉偽装や類似の問題がここ数年見出しをに ぎわせている中、食品偽装セッションは当然人 気でした。このタイムリーなセッションでは、3 つの主要な学習目標を知らせることを目的と して、食品偽装防止戦略の「背景」を検討しま した。その目標とは、実際の食品偽装事件にお ける個別の対抗措置実施を理解し、専門家が どのようにして従来型アプローチから革新的 対応へ移行しているか明らかにし、複合的アプ ローチを適用して食品偽装のリスクを低減す る方法を実証することです。

会議の最後になるブレイクアウト・セッション では、食品安全文化について食品サービスお よびホスピタリティの観点を参加者に提示しま した。セッションには、ソーシャル・メディアに シームレスに組み込まれた食品宅配プラット フォームである美団-大衆点評のヨンジアン・ ゾン氏を含む食品サービス革命の最前線にい る講演者が参加しました。参加者はまた、現代 のミレニアル世代のニーズに応えるための内 部情報も得ることができました。

26 ギャラリー / エグゼクティブ・サマリー エグゼクティブ・サマリー / ギャラリー 27





GFSI カンファレンス・スポンサー

パートナー





















ゴールド







シルバー





ブロンズ













サポーティング・アソシエーションズ







展示企業









































































メディア・パートナー











SEE THE BIGGER PICTURE FROM A FRESH PERSPECTIVE.

A focus on food safety can reveal opportunities for growth at every point along the supply chain journey. See how real-time data, integrated systems, and the power of human intervention can create an ecosystem of growth.

LEARN MORE AT ECOLAB.COM/FOODSAFETY







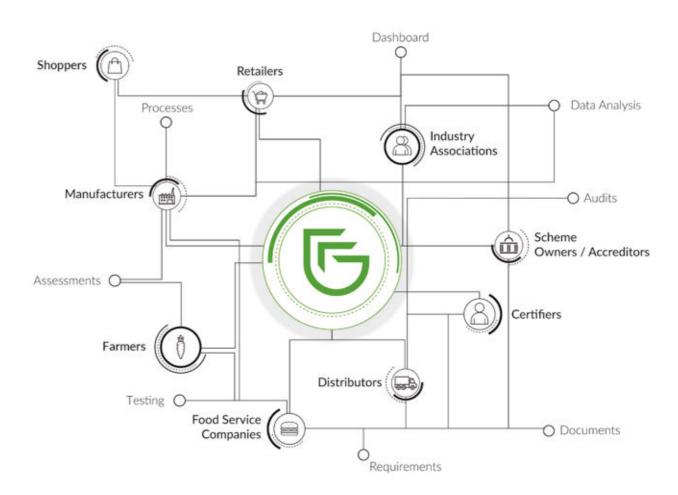








An open blockchain platform ecosystem enabling trust for the world's food industry



greenfence dramatically shifts the paradigm of food safety:

The value chain is connected from farm to fork, preventing harm to the shopper; food is safer everywhere.

Learn more about greenfence

Visit www.greenfence.com or send us an email to support@greenfence.com





FOOD and AGRICULTURAL services



WHY CHOOSE BUREAU VERITAS



A global leader/

In laboratory testing, inspection and certification with (75+) testing labs, 2000 food inspectors and auditors providing services worldwide.



Expertise and reach /

International knowhow combined with local knowledge and a deep understanding of food business challenges.



Bureau Veritas

Field-to-fork

A comprehensive

service portfolio to

help clients along

highest standards

of quality, product

social responsibility.

integrity, health

and safety, and environmental and

the entire food value

chain comply with the

services /

A globally recognized symbol of quality and a commitment to excellence.

A wide range of services to ensure food safety, quality and traceability - all the way from field to fork

OUR SOLUTIONS

- Leading certification services (GFSI, food safety and quality standards/ norms, 8000 + certificates per year)
- Leading testing (75+ Food and Agricultural labs) and inspection services





origin

The first consumer facing traceability claim, based on the Blockchain technology, that provides consumers with products proofs of quality. Origin gives access to the complete history of a product: where it comes from, how it was made and processed, and how its quality was preserved





Protect your business and your customers

with innovative food safety and risk management services

Diversey and CxS are proud of having sponsored the 2018 GFSI Global Food Safety Conference.

Diversey is an innovative global cleaning and hygiene technology company employing 9,000 in over 175 countries, while CxS, pronounced "C by S," with the letters representing "Cleanliness" & "Sanitation" serves similar markets in Japan. Both offer food safety services such as consulting, auditing, training and micro-testing for industrial customers in the facility management, health care, hospitality, retail and food service and food and beverage sectors.

Thanks to the many of you who have attended our special session and interacted with us.
To continue the dialogue:
www.diversey.com
https://cxs.co.jp/en/

For a healthier and safer world.



© 2018 Diversey, Inc. All Rights Reserved, 66380-ADV (18/075)



ASSURANCE CAN HELP YOU BUILD TRUST IN EVERY LINK

How will digital transformation change the food industry and impact food safety? IoT, Big Data, advanced analytics and blockchain may sound like buzzwords to you, but we believe they will significantly improve our food value chains, contributing to safer and more sustainable production.

Digital assurance solutions will help you manage your supply chain more effectively while reducing cost and friction. Enabling unprecedented transparency, providing insight for better decisions, optimizing resource utilization and allowing you to benefit from consumer feedback are just examples of this ongoing transformation. There has never been greater scrutiny of your supply chains and building trust has never been more important.

Through our portfolio of assurance services - certification, verification & training - we are here to help you assure safe food for consumers everywhere. Through our innovative projects and initiatives, we combine our industry knowledge and technology capabilities to pioneer digital assurance and help you build more trust into every link of your supply chains.

Want to learn more? Come visit the DNV GL stand. Our experts would love to discuss safe and sustainable food and digital trust with you.





Protect Your Consumer Trust

Build your brands reputation and drive customer loyalty with SAI Global's services and solutions to help you achieve the highest food standards - anywhere in the world.



FOOD SOLUTIONS

EXCELLENCE IN SAFETY, QUALITY AND SUSTAINABILITY

Recognized as the global benchmark for quality and integrity, with more than 95,000 employees, SGS operates a network of over 2,400 offices and laboratories around the world. Our food solutions include:

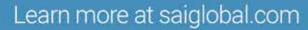
- . GFSI Food Certification incl. BRC, BAP, IFS, FSSC and SQF
- . Seafood & Aquaculture Certification and Related Services
- . FSMA Training, Audit and Consulting Services
- · Social, Ethical and Sustainability Audits
- . Food Fraud, Defense and Authenticity including:
- Gluten-free, Halal and Kosher Certification
- DNA-NGS Testing for Food Fraud and Key Contaminants
- · Farm Sustainability Assessments (FSA)
- · Animal Welfare Audits
- · Services for Catering and Food Service Sector
- · Supply Chain Risk Management
- · Food Inspection and Testing Services
- · Food Technical Training including Tailored Programs

™ tood@sgs_com

www.foodsafety.sgs.com

In SGS AGRICULTURE AND FOOD



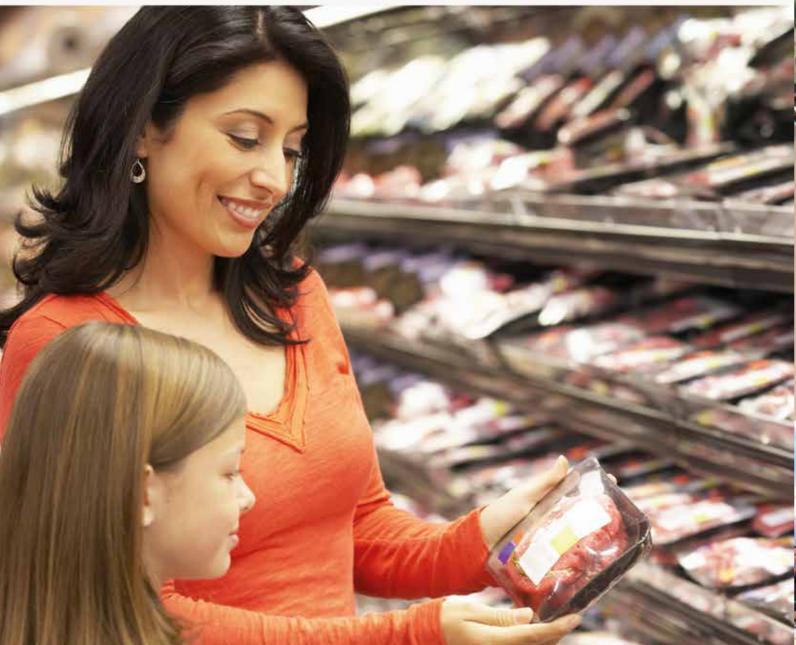






















25th-28th FEBRUARY 2019 NICE FRANCE

tcgffoodsafety.com

#gfsi19

GFSI CONFERENCE